

事業内容:防災に関する指導方法等の開発・普及等のための支援事業
学校防災アドバイザー活用事業の実施

題 名:防災教育を中心とした実践的安全教育総合支援事業
(命の大切さを考える防災教育公開事業)
(帰宅困難・引き渡し)
—災害から生命を守る～自助・共助～—

所属・電話番号:浦安市立高洲中学校・047-712-5533

校長 山高 智美

1 実施事業

- (1) 防災に関する指導方法等の開発・普及等のための支援事業の実施
(2) 学校防災アドバイザー活用事業の実施

2 事業概要

- (1) 学校と地域住民や関係諸機関の参加による合同防災訓練を実施する。
(2) 生徒の自助、共助の心を豊かにするために、防災講演会を実施する。
(3) 学校における防災教育の取り組みについて、授業公開を実施する。
(4) 災害発生時の学校と地域住民や関係諸機関の役割を再検討し、より実効性のある防災マニュアルを作成する。

3 実施概要

実施時期	計 画 事 項	参加者
4月	避難方法と避難経路の確認訓練	学校職員
5月	第1回担当者連絡会議	関係担当者
6月	救急救命法講習会	学校職員
	防災教育授業	生徒・学校職員
7月	第1回避難訓練	生徒・学校職員
9月	第2回避難訓練	生徒 学校職員 消防署職員
	防災教育講演会	生徒・教職員 学校防災アドバイザー

実施時期	計 画 事 項	参加者
10月	第3回避難訓練 (帰宅困難・引き渡し訓練)	生徒 学校職員 保護者
	防災教育職員研修会	学校職員 学校防災アドバイザー
11月	防災教育公開授業 [特別活動授業公開および講習会]	生徒・学校職員 学校防災アドバイザー
12月	第2回担当者連絡会議	関係担当者
1月	救急救命法講習会	生徒 日本赤十字

4 担当者連絡会議

	氏名	所属及び役職
1	川元 洋	千葉県教育庁葛南教育事務所指導室 主席指導主事
2	大和 利光	浦安市教育委員会教育総務部保健体育課課長補佐
3	山崎 明人	浦安市総務部防災課係長
4	山高 智美	浦安市立高洲中学校校長
5	森田 弥	浦安市立高洲中学校教頭
6	長野 文恵	浦安市立高洲中学校主幹教諭
7	荻野 浩明	浦安市立高洲中学校防災主任
8	松本 健二	浦安市立高洲中学校 PTA 会長
9	坂上ますみ	高洲中学校区健全育成連絡会 会長

5 具体的な取り組み

(1) 防災教育授業

ア 期日 平成 27 年 6 月 8 日 (月)

イ 内容

避難訓練を中心とした防災教育の意識を高めるために、全校生徒を対象に NHK 教材「大地震と津波に備える」の DVD を視聴した。



(2) 第 1 回避難訓練 (火災を想定)

ア 期日 平成 27 年 7 月 15 日 (水)

イ 内容

本年度最初の避難訓練ということもあり、避難経路の確認も含めて実施した。

(3) 第 2 回避難訓練 (地震を想定)

ア 期日 平成 27 年 9 月 2 日 (水)

イ 内容

悪天候のため、避難場所はグラウンドではなく、体育館となった。今回の避難訓練では浦安市消防本部の方が参観し、避難の仕方、心得等についての講評をいただいた。



【廊下を避難する生徒】



【消防署本部の方の講評】



(4) 防災教育講演会

ア 期日 平成 27 年 9 月 17 日 (木)

イ 講師 一般社団法人
防災教育普及 協会事務局次長
宮崎 賢哉 様

ウ 内容

「生命の大切さを考える防災活動」
～自助・共助～をテーマとした講演会
を開催。防災活動の意義について学ぶ。

【体育館で講演を聴く全校生徒】



(5) 帰宅困難・引き渡し訓練

ア 期日 平成 27 年 10 月 24 日 (土)

イ 内容

震度 6 強の強い地震を想定して、災害等の緊急時に、状況に応じた適切な判断や迅速な行動が取れるようにするとともに、確実に保護者に生徒を引き渡す手順を確認することを目的として訓練が行われた。

＜第 1 次避難＞避難放送により、机の下に避難し次の指示を待つ。



＜第 2 次避難＞放送の指示に従って、生徒は体育館に避難。



体育館での整列、点呼。担任が確認し、校長へ報告。



校長より避難訓練の講評と引き渡し訓練の説明。



保護者が来校したら、担任は引き渡しカードを確認し、生徒を引き渡す。



引取りのない帰宅困難生徒は、教室に待機し、安全確認後集団下校。



(6) 防災教育公開授業（特別活動）

ア 期日 平成 27 年 11 月 26 日 (木)

イ 講師 千葉県赤十字支部所属
赤十字ボランティアリーダー
清水 重彦 様

ウ 内容

「災害から生命を守る～自助・共助～」をテーマとして、全クラスで特別活動の授業を行った。

「安全な家具の配置や転倒防止策」を考える。(1年)



授業後の講習会では、赤十字救急法指導員から応急手当の仕方を教わる。



6 成果と今後の課題

(1) 成果

ア 本校は開校2年目であり、防災に関する知識、体験は生徒も職員も不十分であった。しかし、今年度防災教育の指定を受けたことにより、避難訓練や講演会、職員研修等のさまざまな活動をとおして防災教育に対する意識を高

めることができた。とくに、今回初めて実施した帰宅困難・引き渡し訓練では、多くの保護者の協力もあって、今後の防災活動に大きく役立つものとなった。

イ 中学校での引き渡し訓練の実施にあたっては、学区内2小学校で例年行われている活動計画を参考にして作成した。本校職員のほとんどが引き渡し訓練の経験がないため、どのような状況になるのか不安であったが、生徒や保護者は思いのほか訓練に対する抵抗感は少なく、冷静に判断し行動する様子が見られた。また、授業参観後とはいえ、待機した生徒のほとんど(9割近く)が保護者と一緒に帰宅することができ、たいへん有意義な訓練となった。

(2) 課題

ア 体育館で生徒を引き渡す際、保護者が同時刻に一斉に引き取りに来たため、「引き渡しカード」の確認に手間がかかり混雑が生じた。スムーズにチェックし引き渡す方法を工夫していきたい。

イ 帰宅困難者(引き渡しできなかった生徒)については、地区ごとに教室で待機させたが、クラスがばらばらであったため、クラス名簿と地区別名簿の確認が思うようにできなかった。

ウ 長時間帰宅困難となった場合に学校でできる“共助”活動(テント、簡易トイレの設営等)についても取り組ませる工夫が必要であった。